

1 得点分布及び小問ごとの正答率

〈表1〉得点分布

得点	670人	
	人数	%
100	0	0
90～99	30	4.4
80～89	91	13.4
70～79	116	17.3
60～69	111	16.6
50～59	127	19.0
40～49	106	15.8
30～39	56	8.4
20～29	30	4.5
10～19	3	0.4
1～9	0	0.0
0	0	0

*合格者の中から、無作為に抽出した670人(12.6%)の結果である。

〈表2〉小問別正答率(%)

大問	小問	正答率	
1	問1	1 88.2	
		2 97.2	
	問2	1 50.9	
		2 45.0	
		3 98.2	
		4 84.1	
	問3	1 100	
		2 92.8	
		3 79.4	
		4 28.3	
	小計		76.4
	2	①	99.1
②		98.2	
③		82.9	
④		54.3	
⑤		61.3	
小計		80.4	

大問	小問	正答率	
3	問1	(1) 88.6	
		(2) 77.6	
		(3) 65.1	
		(4) 92.1	
	問2	① 84.3	
		② 42.6	
		③ 86.8	
		④ 40.4	
		⑤ 30.8	
	小計		69.0
4	問1	(1) 93.0	
		(2) 50.2	
		(3) 58.8	
	問2	(1) 45.4	
		(2) 40.7	
		(3) 50.0	
	問3	39.7	
	小計		45.2
	5	問1	(1) 98.1
			(2) 69.4
(3) 65.6			
(4) 49.9			
問2		32.7	
問3		59.1	
問4		62.1	
問5		37.7	
小計		56.9	

2 分析結果の概要

〈表1〉得点分布では50点台が、19.0%と一番高くなっており、その次が70点台の17.3%、60点台の16.6%となっている。全体的に難易度が下がったため、下位層が昨年に比べ少なかった。

〈表2〉の小問別正答率であるが、昨年度に比べ正答率が下がった問題は、大問4であった。大問4は「書くこと」の領域で、例年受検生が苦手としているところであるが、今年度も同じ結果になっている。特に「トピック指定問題」「条件指定問題」共に正答率が低く、基礎的な文法事項の定着がなされていなかったり、まとまりのある内容の文章でなかったりした解答が多かった。また、大問5の問5においても「書くこと」の領域の問題が出されたが、正答率は、大問4の問3とほぼ同じ結果になっている。一方、大問2、大問3、大問5は「読むこと」の領域の問題であるが、昨年に比べて語彙数が減ったことで、比較的受検生には読みやすく、正答率が上がっている。大問1の「詳細理解」を問うリスニング問題では、約80%以上の高い正答率を上げている。

大問別の正答率の経年比較は、次の通りである。

大問	平成15年度	平成16年度	平成17年度	平成18年度	平成19年度
1 リスニング	78.3	80.5	71.8	71.4	76.4
2 対話文読解	81.9	74.3	82.6	70.8	80.4
3 対話文、文法・理解	75.1	66.7	66.0	56.0	69.0
4 表現力	34.9	54.4	44.4	51.3	45.2
5 長文読解	56.8	66.0	56.8	43.7	56.9

3 小問ごとの内容及びねらい

1.	評価の観点 関心の意欲 表現の能力 理解の能力 知識・理解	・態度
2.		
3.		
4.		

大問	小問	領域	小問の内容, ねらい	評価の観点				設問方法	
				1	2	3	4		
1	問1	聞くこと	短い英文を聞いて詳細を理解することができる。			○		符号選択	
	問2		英語の対話を聞いて、対話の最後の表現に対して、応答することができる。				○		符号選択
	問3		少し長めの対話文を聞いて、詳細を理解することができる。				○	○	符号選択
2		読むこと	比較的長い対話文を読んで、概要・要点を理解することができる。				○	符号選択	
3	問1	読むこと	比較的短い対話文を読んで、流れを理解して、応答することができる。				○	○	符号選択
	問2	読むこと	南アメリカの先住民に伝わる短い物語を読んで、概要・要点を理解できる。				○	○	符号選択
4	問1	書くこと	与えられた英語を用いて正しい語順で書くことができる。		○		○	記述(英語)	
	問2	書くこと	日本語で書かれたメモをもとに、初歩的な英語を用いて紹介文を書くことができる。	○	○			記述(英語)	
問3	書くこと	ボランティア活動として自分が取り組みたい内容とその理由を、初歩的な英語を用いて書くことができる。	○	○			記述(英語)		
5	問1	読むこと	「My dream」というタイトルのスピーチ原稿を読んで、文章の概要・要点を読み取ることができる。				○	符号選択	
	問2			まとまりのある文章の概要・要点を読みとることができる。				○	記述(日本語)
問3		まとまりのある文章の概要・要点を読みとることができる。				○	符号選択		
問4		まとまりのある文章の概要・要点を読みとることができる。				○	符号選択		
問5	書くこと	自分の考えや気持ちなどを、初歩的な英語を用いて書くことができる。	○	○			記述(英語)		

4 標準解答及び考察

1

〈標準解答〉

問1	1	ア	2	ウ				
問2	1	ウ	2	エ	3	ア	4	ア
問3	1	イ	2	ウ	3	エ	4	ウ

〈考察〉

聞く力をみる問題である。問1は、短い説明文を聞いて、それに関する質問の答えとして適切なものを選択する問題で、1は日本語の挨拶表現「いただきます」、2は「双眼鏡」の絵を選択する基本的な問題である。それぞれ88.2%、97.2%と高い正答率であった。問2は対話文を聞いて、対話の最後の表現に対する応答文を選択する問題である。1の正答率が50.9%、2の正答率が45.0%とやや低い結果であった。1ではウのLet's turn down the heater.が正解であるが、誤答の大半はイのLet's turn off the TV.エのLet's turn off the light.を選択したものであった。また2の誤答の大半は、ウのOK. I'll give you the message.を選択したものであった。原因としては、言語の使用場面を的確に捉えていなかったり、相手の意図を理解して、英語の定型表現を適切に用いることができなかつたりしたためと思われる。問3は少し長めの対話文を聞いて、その後の英語の設問に答える問題である。1. 2. 3. は英語の質問に対して適切な詳細（絵）を選択する問題で、正答率が、それぞれ100%、92.8%、79.4%と高かった。一方、4は、対話文の概要・要点を捉えた上で、文法力を問う問題で、正答率は、28.3%とかなり低い結果だった。

そこで指導に当たっては、日頃から授業の中で、生徒に言語の使用場面を意識させることが大切である。また、定型表現による応答練習をする場合は、定型どおりの応答ではコミュニケーションが成り立たない場面や機会を設定し、単に機械的な定型表現の学習にならないようにするよう配慮することも必要である。

2

〈標準解答〉

①	エ	②	オ	③	キ	④	イ	⑤	カ
---	---	---	---	---	---	---	---	---	---

〈考察〉

身近な話題を扱った比較的長い対話文を読んで、概要・要点を理解できる力をみる問題である。宮崎に関連した問題で、「日向」「ひむか」のことばについての話や太陽エネルギー利用の話に関する女子生徒と留学生の対話文を読み、対話の流れから、本文の空所に入る適切な英文を選択する問題である。昨年に比べて、正答率が約10%上がって80.4%と高い結果だった。理由としては、対話文の語彙数が昨年より約100語少なくなり、内容も分かり易かったことが挙げられる。特に①②③の正答率がそれぞれ、99.1%、98.2%、82.9%と高い結果であった。一方、④⑤の正答率はそれぞれ、54.3%、61.3%とやや低い結果であったが、④⑤にウのThis is one environmental problem.を入れている誤答が多くあった。

そこで指導に当たっては、文章を読む際には、文脈や文の前後関係に注意しながら、特に指示代名詞が具体的に何を指しているのか注意しながら英文を読むように指導することが大切である。さらに、まとまりのある文章を読む際に、言語の使用場面と働きが有機的に組み合わせられて情報や考えが伝えられることを踏まえて、書き手の意向などを適切に理解させる指導が必要である。

3

〈標準解答〉

問 1	(1)	ウ	(2)	カ	(3)	オ	(4)	ア		
問 2	(1)	ク	(2)	ウ	(3)	カ	(4)	イ	(5)	キ

〈考察〉

言語活動を行う場合の基礎的な力をみる問題である。問 1 は短い対話文を読み、言語の使用場面を把握して、適切な英文を選択する問題である。正答率は (1) (2) (4) で70%以上の高い結果であった。(3) の正答率は、65.1%でやや低い結果であった。誤答例としては、イ I'm new to them. エ OK. Go straight ahead. の選択が多かったが、be new to~ の慣用表現やGo aheadなどの言語の使用場面が十分理解されていないと思われる。問 2 は南アメリカの先住民族に伝わる、クリキンディという名前のハチドリの短い物語を題材に書かれた英文を読み、話の筋や文の構造から、本文の空所に当てはまる適切な語を選択させる問題で、読解力と文法力をみる問題である。正答率が低かったのは②④⑤の問題で、それぞれ42.6%、40.4%、30.8%であった。②は前置詞の後ろに来る動名詞の問題、④が something の後に形容詞が来ることと so ~ that を融合した応用問題である。⑤は「概要・要点理解問題」で文脈から nothing を入れる問題であるが、誤答例として something の選択が多かった。

そこで指導に当たっては、一語一語の意味や一文一文の解釈など、内容の特定部分にのみとらわれたりすることなく、文章全体の流れを読み取ったり、概要をとらえたりするなどの読み取りの指導を行うことが必要である。また「語、連語及び慣用表現」や「文法事項」などの言語材料の基礎的事項の定着をしっかりと図ることも必要である。

4

〈標準解答〉

問 1	(1)	Yes, he (is as old as my brother) .
	(2)	Do you (know when she will come back to Miyazaki) ?
	(3)	That (is the man we met in the library) last week.
問 2	(1)	(例) He is a math teacher. / He teaches math.
	(2)	(例) He likes tennis the best of all the sports. / His favorite sport is tennis.
	(3)	(例) He has been to the U.S. twice. / He went to America twice.
問 3	(例)	I want to clean the streets in this town with my friends after school, because I'd like to do something to make the town cleaner.
	(例)	I'm interested in reading books to children at the city library as a volunteer, because I want them to like reading books..

〈考察〉

「書くこと」について、問 1 「文構造理解問題」、問 2 「条件指定問題」、問 3 「トピック指定問題」の出題になっている。問 1 の (1) は、as ~ as を使った基礎的な問題で正答率が93.0%と高い結果であった。(2) は、主語+動詞+ when で始まる節の問題、(3) は、接触節の問題で、それぞれ正答率が50.2%、58.8%とやや低い結果であった。誤答例として、(2) でDo you know when will she come back? (3) で That the man is we met in the library. が多く見られた。問 2 はメモを参考に英語で紹介文を書く問題で、正答率が (1) で45.4%、(2) で40.7%、(3) で50.0%と低い結果であった。誤答例としては、(1) では、teachに三単現のesが付いていないものや、teaches がtaughtと書かれているもの、(2) では、最上級の英文が適切に書かれていないもの、(3) では、has been toやtwice の綴りが書けていないものが多く見られた。問 3 は、ボランティア活動として自分が取り組みたい内容とその理由を英文で書く問題である。正答率が39.7%と低い結果であった。無解答は少なかったが、全体で20語以上になっていないものや、基本的な文法の間違いや単語の

綴り間違いが多く見られた。また、まとまりのある内容の文章になっていないものも多く見られた。

そこで指導に当たっては、習った言語材料や文法事項を使って「書く」指導を継続的に行う必要がある。特に書く意欲や表現力が比較的低い生徒に対しては、単一の文を書けるようにする指導に留まらず、習得した文構造を使って書ける適切なトピックを設定して、まとまりのある内容の文章を書かせる指導を継続的に行うことが必要である。

5

〈標準解答〉

問 1	(1)	ア	(2)	ウ	(3)	イ	(4)	ア
問 2	(例) アイザック・スターンが演奏したバイオリン曲を聴いて、感動した人たちを見たから。							
問 3	イ	問 4	ウ	オ				
問 5	(例) I think that her speech is wonderful. I hope she will be a famous violinist. (15語)							
	(例) I'm sure her dream will come true. I have a dream too. I'll try my best for my dream. (19語)							

〈考察〉

本文は、「My dream」というタイトルのスピーチ原稿で、「宮崎国際音楽祭」を題材に書かれた英文である。語彙数は昨年とほぼ同じであるが、正答率56.9%で昨年に比べて約13%上がった。正答率が低い問題としては、問1の(4)の正答率が49.9%で、誤答例としてはウを多く選択していた。場面や状況を正しく理解することができないために、誤ってとられた一部の情報にとらわれて誤答を選ぶ傾向があるようだ。問2の正答率も32.7%と低い結果であった。下線部直前のWhen I saw them,の内容を正確に理解できていない解答や無解答が多く見られた。問5は、本文を読んで自分が思ったことを初歩的な英語を用いて書く新傾向の問題である。無解答は少なかったが、その他の「書くこと」の問題同様、正答率は37.7%と低かった。

そこで指導に当たっては、長い文章を読んで、概要・要点を正確に読み取ったり、書き手の意向などを適切に理解させたりする指導が大切である。また4技能のうち2技能を組み合わせた指導、「読むこと」と「話すこと」又は「書くこと」、「聞くこと」と「話すこと」又は「書くこと」を授業の中に取り入れ、このような活動を継続的に取り組ませることで、書く意欲及び表現力を育成していくことが大切であると思われる。

【英語リスニングテスト 読み上げ原稿】
本番用台本（平成19年度）

本番用

[4点チャイム]

【1秒】

これから、英語の学力検査を行います。まず、解答用紙に、出身中学校、受検番号及び氏名を書きなさい。書き終えたら、問題用紙のページ数を調べて、異常があれば黙って手を挙げなさい。

[1点チャイム]

【44秒】

最初の問題は、放送によるリスニングテストです。問題用紙の1ページを開きなさい。

では、問1の問題を始めます。問1は1番と2番で、それぞれの英語による説明文を聞いて、その内容についての質問に答える問題です。質問の答えとして最も当てはまるものを、ア、イ、ウ、エの中から1つ選び、記号で答えなさい。英語による説明と質問は2回繰り返します。

1番

【1分28秒】

This Japanese word is said before eating breakfast, lunch, dinner and so on.

Question : What is this Japanese word?

繰り返します。・・・・・・・・

2番

【2分09秒】

My father gave me a present for my birthday. I like it very much. I always use it to enjoy watching birds. I can watch them far away with it.

Question : What is my father's present for me?

繰り返します。・・・・・・・・

[1点チャイム]

【3分01秒】

問2に移ります。問2は、1番から4番までのそれぞれの対話を聞いて、対話の最後の表現に対して相手が答える表現を選ぶ問題です。相手が答える表現として最も適当なものを、ア、イ、ウ、エの中から1つ選び記号で答えなさい。相手が答える箇所ではチャイムが鳴ります。英語による対話は2回繰り返します。

1番

【3分40秒】

M : It's too warm in this room, isn't it?

F : Yes, I think so too.

M : (チャイム)

繰り返します。・・・・・・・・

2番

【4分10秒】

F : Hello. This is Kumi speaking. May I speak to John, please?

M : Sorry. He is out now.

F : I see. May I leave a message?

M : (チャイム)

繰り返します。・・・・・・・・

3番

【4分52秒】

F : Do you have any plans for Saturday?

M : I'm busy in the morning, but I've nothing in the afternoon. Why?

F : We're going to have a party at my house. Do you want to come?

M : (チャイム)

繰り返します。

4 番

【 5 分 3 9 秒】

M : I'll go on a school trip next month. I'm very excited.

F : Where are you going?

M : I'll travel around Kyushu. Have you ever been to Nagasaki?

F : (チャイム)

繰り返します。

[1 点チャイム]

【 6 分 2 2 秒】

問 3 に移ります。問 3 は由利とマイクの対話を聞いた後に、その内容について 1 番から 4 番までの質問に答える問題です。1 番から 3 番は、質問の答えとして最も当てはまる絵を、ア、イ、ウ、エの中から 1 つ選び、記号で答えなさい。4 番は、質問の答えになるように、() 内に入る最も適切なものをア、イ、ウ、エの中から 1 つ選び、記号で答えなさい。英語による対話及び質問は、2 回繰り返します。

Yuri : Hi, Mike.

【 7 分 1 3 秒】

Mike : Hi, Yuri. You look nice in a Kimono.

Yuri : Thank you, this is called a Yukata in Japanese. I always wear this when I go to Natsu Matsuri.

Mike : Natsu Matsuri?

Yuri : Yes, summer festival. Would you like to join us?

Mike : That sounds good. I'm going home, but I can join you. By the way, many people have something in their hands like you. What is it?

Yuri : It's called an uchiwa in Japanese. An Uchiwa is good for keeping us cool on a hot day. I have two uchiwas. I'll give you one.

Mike : Oh, thank you. Look, there are three little fish on this uchiwa. They are very cute, aren't they? Yuri, what is this number on my uchiwa?

Yuri : Your number is 24. Mine is 25. The newspaper will say the lucky number next Sunday August 20th. If your number is the lucky number, you will get a present. So please keep your uchiwa until next Sunday.

Mike : That's interesting. I will keep this.

Yuri : Well, Mike, there is a big problem after this Natsu Matsuri every year. Many people leave their uchiwas on the street. But this time I'm sure a lot of people will take them back to their homes.

Oh, that's a good idea, isn't it?

Mike :

Yuri : Yes, I think so, too.

1 番 Question : What does Yuri wear?

2 番 Question : Which is Mike's uchiwa?

3 番 Question : When will the newspaper say the lucky number?

4 番 Question : What is the problem after the Natsu Matsuri every year?

繰り返します。

【 9 分 4 2 秒】

[1 点チャイム]

【 1 2 分 3 4 秒】

これで、リスニングテストを終わります。引き続き、2 ページ以降の問題に進みなさい。

【 1 2 分 4 5 秒】